

## 原爆ドーム

原爆投下後に残された最大の建造物の一つである広島原爆ドームは、爆心地から 160 メートルの場所に位置しています。チェコの建築家ヤン・レッツェル（1880-1925 年）によって設計され、1915 年に広島県産業奨励館として完成したこの建物は、ヨーロッパスタイルの建築物として称賛された地元のランドマークでした。建物の影が元安川に映る様子は、現在でも見ることができます。

原子爆弾はほぼ真上で爆発し、建物の大部分を破壊し、そこにいた人全てを殺しました。しかし、このドームの鋼鉄製の骨格は、その下の厚いコンクリートの壁の一部と共に、何とか生き残りました。これらのねじれて炭化した残骸は、現在まで残っており、かつて川沿いを散歩する人々を魅了した堂然とした建物の面影からはかけ離れています。

第二次世界大戦後、この建造物は原爆ドームとして知られるようになり、当初は一般の人々が内部の壊れたドームの真下を自由に歩き回ることができました。その後、1966 年に広島市は核戦争の恐怖の無言の証人という役割を担う記念碑として、この場所を保存することに決めました。この建造物が安全に立ち続けるために必要な作業が行われ、1996 年に世界遺産に登録されました。